

#04.お昼休みの空き教室で秘密のいちゃラブえっち♪

//学校・空き教室

「やほ～来たね」

「誰にも見られてない？ よしよーし」

「じゃあ、昼休みは長いよーで短いから…早速…ね～」

「んっ…ふう…はあはあ…すう～…はあ～…」

「すんすん…んんっ…あんたの、匂い～♡」

「ん～、なんか気に入っちゃったっていうか？」

「ついつい嗅ぎたくなっちゃうんだよね～」

「すんすん…ふう…」

「うん、やっぱりこの匂い…好き～」

「って、このままじゃいつまで経ってもはじめらんないか～」

「さっさと立たせないといけないし～」

「こうしてぎゅーってしながら、興奮させてあげよ～」

「んっふ…んちゅっ、ちゅっ…ちゅう…ちゅっ…ちゅぷあっ♡（はぁ…）」

「んふっ…ちゅっ、ちゅう、んんっ！ れるちゅっ…ちゅぶ…ちゅうりゅ…♡」

「んふう、ふう♡ れるれる、れろちゅっ…ちゅるれりゅ、れろれりゅ…♡」

「はふう…はぁ、はぁ、最初からベロ使うとか～」

「こうやっておっぱいを押し付けられてるから…いつもより興奮してる～？」

「いや、まぁ私のストロングポイントなんてさ～

この胸ぐらいしかないわけだし～、そう思ったんだけど…」

「あ、そもそも時間がないから…とか？」

「ま、いっか～」

「効果はあったみたいだし～？」

「ほら～おちんちん、ちょっとずつ大きくなってるじゃん？」

「んっ、ちゅっ、ちゅう…ちゅっ…ちゅう、ちゅっ…ちゅううう…♡」

「ちゅる、はむっ、れるれる、れろちゅう…んちゅっ、ちゅぶっ…はあ、ふう♡」

「んちゅっ、れる、れろ、れろれりゅ…んちゅりゅ…んふっ、れるれる、れろお
～ちゅっ♡」

「ぷふう…はあ、はあ♡ はふう♡ んふ～、もう準備オッケーって感じ？」

「苦しそ～にパンパンになってるじゃん？」

「そわそわ…さわさわさわ～」

「ふふっ…もっと焦らしたら～いいかなーなんて思ったんだけど…」

「こうやって時間かけちゃうのもあれか～」

「私も、たくさん気持ちよくなりたいしね～」

「ん、そろそろ…ね」

「脱がしてあげる」

「んふっ、ちゅっ、ちゅぶっ…んふっ、ふう…ちゅる、ちゅぶっ、ちゅるれる…
れるれる…」

「れろちゅっ…ちゅぶう、ちゅる、れるれる…んふっ、れろお…れるれる…
ん、ちゅう…」

「んっ…まだやめないで…私も…下…んちゅっ、ふう、脱ぐから…♡
れるれる、れろお…れるちゅっ♡」

「んんっ…ふう、ふう…はふうっ、んちゅう、れるれる…れろお～ちゅっ
…んちゅっ…」

「んふう、んちゅっ…はふう…んちゅ、れる、れる…れるれるれるれる、
れるうううう…」

「ぷはあ！ はあ、はあ、はあ♡ はあ♡ ふう…♡」

「そこ、椅子…そのまま…んふう、座って…」

「はあ、はあ…えへへ…おちん…ちん、ピーンってしてるっ…」

「ふふ、早く準備してあげないとね～」

「んふっ、ん、待っててね…すぐに…」

「ん…ふう…うん、これで準備オッケ～」

「それじゃあ…上、失礼しま～す」

「んっ、んんっ♡ ふうっ、ふっ…んふっ…んっ、んっ…んうう♡」

「ふう、ふう…はあ、ふう…えへへ、今日はさ…その…密着した感じで…
したかったから…」

「あんたも、おっぱい押し付けられて、まんざらでもないでしょ～？」

「ふう、ふう…お互いの体温、感じながら…さ…熱くなって、
汗とかの匂いも…お互いに、移し合って…一緒に、気持ちよく…なる♡」

「ふう、ふう…ふう、えへへ…興奮した？ したでしょ～？」

「…私も♡」

「それじゃ、挿れるね♡」

「んっ…んんんんんっ♡」

「はふう、ふう♡ ふう♡ んんっ…今日も、んんっ、いいトコ…こすって…」

「はあ、はあ…ふう…ほんと、あんたのが…中に入ってるって思うと、
不思議だわ～」

「ふう、ここらへん…まで入ってきてるんだよ？ すごくない？」

「んんっ…って、自分で言ってるって恥ずかしくなってきた♡ あはは…」

「んっ…動くね…」

「んっ、んっ、ふっ、ふっ…んふっ、ふっ…ん、んん、んうっ…ふう…」

「はあ、はふっ、んふっ、えふっ…ふっ、んふっ、ふう、ふっ、ふっ…んんっ♡」

「んっ、んふっ…ふーっ、ふーっ…んっ…んんっ、くうっ…ふう、ふう…」

「ん？ んふう、んん、おかしい…かな？」

「んんっ、ふっ、ふう…いや、声さ…」

「あんまり喘がないようにって…んっ、ふうっ、してるんだけど…」

「だって、だって…ここ、学校だし？ バレたらやばいじゃん？」

「だから、私なりに…注意してるの…んっ、ふうっ…はあ、はあ、ふうっ…」

「さすがにさあ…んんっ！ 停学とかになったら…やばいでしょ…

ふうう…んっく…はあ、はあ…ふう…」

「あんたに、迷惑かけたく…んんっ♡ ないし…♡」

「はあ、はあ…えへへ、なら…昼休みにセックスしよ…なんて、

誘うなって話だよね～」

「でも…しょうがないじゃん？ どうしても、したくなっちゃったんだし…」

「あんたと、してから…なんかおかしいの…んんっ！」

「ずっと、あんたのこと、考えちゃって…んんっ！」

「…家でも、しちゃう…し…ふう、んっ…んんっ、はあ、はあ…ふう…んっ！

ふうう♡」

「んんっ…あっ！ あうっ！ んっ！ んんっ！」

「あ、駄目っ…そんな風にしちゃ…声、漏れちゃうってえ♡」

「ああっ…んっ！ んんんっ！ あっ！ ああっ！ はあ、ふっ！ んんっ！」

「な、なにに？ んんっ！ こうふっ…んんっ！ はあ、あっ！ んあっ！

しちゃった…の？ んんっ、ふうう…！」

「あ、あはは…でも、そうだよね…」

「こういう風にいけないことしてるって…思うと…んんっ！

はあ、はあ…興奮しちゃう…よねえ♡」

「んんっ！ ああっ！ あっ！ あっ！ んんっ！ あふっ！ はあ、あっ！

んんっ！ あんっ！」

「ああっ…でも、流石に…まずいっかも♡ んんっ！ あああっ！

声…んんっ！ ふう、ああっ！ 抑えられなくなっちゃってきてるし…」

「んんっ！ はあ、はあ、あああっ！ あんっ！ おちん…ちん、

どんどん気持ちよくなる…しい♡」

「…もう、こうなったらあ♡」

「んっ…ちゅっ♡ ちゅぶっ、んちゅう、れるれる、れろちゅうっ…

んふっ、ちゅぶっ…れろれろ、れるちゅう…んちゅっ…」

「んふう、ふう、んちゅっ、ふっ…んんっ♡

んんっ、れるれる、れろちゅ…ちゅりゅ…れるっ…」

「ふうう…あっ…声、出そうになった…んんっ！ らあ…れるれる、んふっ…

ちゅっ…ちゅうっ…チューすれば…んふっ、ちゅぶっ…

声、抑えられるって、思ってえ…んちゅ、れるれる…れろちゅっ…♡」

「んふっ、ふう～♡ 名案…んちゅっ、でしょっ…ああっ…

んちゅ、れるれる、れろう、んんっ！ ちゅうっ！ ちゅぶっ…ちゅうう…♡」

「ふう、ふう…んちゅっ、んあ、ちゅう、れるれる…れろちゅっ…

んんっ、ふっ…ふう…んっちゅう、ちゅう…」

「でも、これ…んちゅっ、れるれる、んんんっ♡ れるちゅっ…キスするたびに

…私があ…んちゅう、ちゅう…ふっ…ちゅう…」

「声出そうになって…んちゅっ、てえ…れるれる、んゅちゅ…

バレちゃう…じゃん？」

「んんっ…ちゅうっ…でも、ちゅっ、んんっ、あんた、だから…いっか♡」

「んんう！　ちゅ！　ちゅうっ！　んちゅ！　れるれる、れろちゅっ！

　んあっ！　ちゅぶっ！」

「ちゅるれる…れろうちゅっ！　んんっ！　ふっ、ふうーっ！

　んちゅっ！　ちゅぶあっ…ちゅぶ、んんっ！」

「ああっ、あっ！　ちゅっ！　んふーっ…ふうーっ…んんんっ！」

「んんっ！　うんっ…私…そろそろ、ちゅうっ…んちゅ、れるれる、はあ、ふう

…いきそお♡」

「んちゅっ…ちゅぶっ、れる、れろう…はああっ…んふっ、ふう～っ！

　ふうーっ！」

「んんっ、あんたも…んちゅうっ、あふっ…そろそろ…れしょ？　んんっ！」

「だからさ…んんっ、れるれる、れろちゅっ、らひてっ…らひてえ…♡」

「溜まってるの…全部っ…んちゅっ、ちゅりゅ、んふっ…♡」

「んちゅっ、ちゅっ、ちゅっ、ちゅりゅ、んふっ！　んあっ！　ちゅぶっ、

　ちゅりゅ…ああ…んあ、んちゅっ、ちゅっ…れろれろ…れろりゅう…」

「れろれろ、れろんふっ、ああ、あんっ、ちゅう…ちゅぶ、はあはあ、

あああっふう！　ちゅるれる、れろれろ…」

「んんっ！　ふう、ふう、んちゅ、んんっ、ああ…イク、イクイクイクラ…♡」

「んんっ！　いくっ、ちゅっ、ちゅうっ、ちゅうううううう！」

「んっ！　んっ！　んんんんんっ！」

「ふう、ふう…んちゅっ、れるれる…れろれるう～んあっ、ふう、ふう…れろ、

れろ…ちゅぶっ…ぷはあ…」

「はあ、はあ…たくさん…出たね～…ふふっ…」

「んっ…ふっ…ふう…」

「やっぱ…すごい量溜まってるじゃん…こんなの生でやったら…んっ…」

「なーんてね…あはは…ふう」

「にしても熱いね～ずっとペターってくっついてたからかな～」

「それに制服…汗臭くなっちゃったかも？　ま、私はいいんだけどさ～」

「んっ…」

「だって、あんたの匂い…けっこー好きだし」

「あの…ね」

「あんただけだから…さ、こういうことしたいって思うの…」

それだけは、その…勘違い、しないでね？」

「ん…まあ、ちょっと伝えたかったっていうか～」

「それでさ…あの…週末なんだけどさ、あんた、夜暇？」

「その～なんていうか～…その一週末さ、親が旅行でいないから…」

「良かったら、来てくれないかなーって思って…」

「ん…金曜の夜から空いてるから…」

「…ん、待ってるから」

「そのまま家に上がって、私の部屋まで来てね」

「約束…だよ」

「うん！」

「じゃあ、話も固まったところで、まだ時間あるよね？」

「急いでお昼、食べちゃお！」

「ん、お弁当、あんたの分もあるから、一緒に食べよ！」

「手作りだぞ～感謝しなね～なんてねっ♡」